



朝晩の寒暖差が大きく、
きれいに紅葉が始まりました。
体調を崩しやすい季節
です。
栄養と休息のバランス
をとり、体調管理を心
がけましょう！

★★11月の研修★★

- わかば
11月20日(月)
11月21日(火)
11月22日(水)
- レベルⅢ
11月10日(金)

★★12月の研修★★

- わかば
12月 4日(月)
12月 6日(水)
12月 7日(木)
- レベルⅠ
12月11日(月)
12月12日(火)
12月13日(水)
- プリセプター
12月18日(月)
12月19日(火)



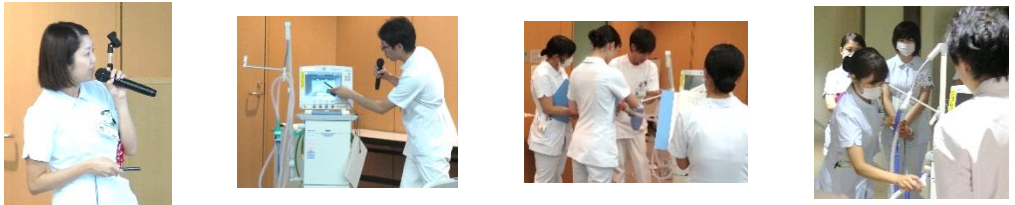
わかば 看護技術研修

インスリン



インスリンの薬剤やエラーの特徴、正しい取り扱いについて、糖尿病看護認定看護師 江尻さんに講義をしていただきました。
「よく使用するので勉強になった」
「普段は扱わないが実践できてよかった」という感想がありました。

人工呼吸器



人工呼吸器の研修は、集中ケア認定看護師 村上さん・木村さん、臨床工学技士 新垣さんが担当され、フィジカルアセスメント・装着中の看護・器械の取り扱いについて講義していただきました。講義と実際に人工呼吸器を触る演習もあり、まだ使用したことがない研修生にもわかりやすい内容でした。
「人工呼吸器を使うことが少なく恐いイメージがあったが、実際に触ってみて少し身近なものになった」
「どういう視点で看護をするのか、根拠をもとに説明があったので、わかりやすかった」
「始業点検やチェックリストなど実践で活かすことを学べた」という感想がありました。



12誘導心電図



12誘導心電図は、研修生同士で装着しあいました。
「実際に装着することで理解が深まった」という感想がありました。



抗がん剤



抗がん剤の取り扱いは、暴露対策について、がん化学療法看護認定看護師 岩見さんに講義していただきました。
「理解が深まった」という感想がありました。

わかば・ラダーⅠ：看護記録



わかばとラダーⅠに対しての看護記録研修は、看護記録委員会のご協力を得て、研修を行いました。事前課題で記録で悩むことについて提出しました。研修では、SOAPについての講義と事例をもとに適切な記録ができていないか、記録で悩むことについてのグループワークを行いました。わかば研修生の傾向としては、Oにアセスメントが記載されていたり、AIに客観的情報や計画が記載されていました。ラダーⅠ研修生の傾向としては、SとOに関して簡潔に記載できず、要点がつかめなかったり、アセスメントが正しいか自信がないなどの意見や振り返りができませんでした。研修後の反応は、「これまで間違った記録の書き方をしていたことに気付いた」
「客観的情報と思っていたことが違ってびっくりした」「もう一度記録について見直す必要がある」など気づき、学びの多い研修でした。
「看護記録ガイドライン」を参考に、簡潔な記録ができるよう取り組んでいきましょう。



ラダーレベルⅠ

救急看護



救急看護認定看護師 片岡さんより、患者の急変につながる危険な兆候(キラースイグナル)を、効果的に発見できる観察の視点やSBARでの報告方法について講義していただきました。

EARRTH研修でも取り入れている「SBAR」を用いての報告方法は、急変時だけでなく日常の報告や、医療者間での情報伝達に役立ちます。

「病棟でも、『SBAR』を用いるので、復習ができてよかった」「病棟での急変時の対応に役立てたい」「普段の申し送りでも活用できる」などの感想がありました。



緩和ケア

緩和ケア認定看護師 池上さんより、エンゼルケアについて講義がありました。事前課題でエンゼルケアで知りたいことを提出し、講義に取り入れていただいたことで、理解につながりました。

「死後の臓器の変化がとても勉強になった」「声かけなど具体的でわかりやすかった」という感想がありました。



ラダーレベルⅢ

看護倫理

急性・重症患者看護専門看護師 阿部さんより、意思決定支援時の看護師の役割について、講義していただきました。

「患者・家族がどんな思いで医師や看護師の話を聞いているのか考えることができた」

「医療従事者として介入してしまいがちだが、患者の状況を考えながら介入のポイントを整理しチームでフォローしていく必要がある」

「意思決定支援をするための情報収集、準備があつて、やっと『支援』ができると思った」などの感想がありました。

事例を用いてのロールプレイは、医師・看護師・患者・家族、それぞれの立場での気づきが得られました。



ラダーレベルⅣ

「看護倫理」「感染防止」に焦点を当て、日頃疑問に感じていることを明確にして1年間かけて解決する研修です。

看護倫理

部署で生じている倫理的問題について、臨床倫理検討シートを用いて情報を整理・分析したものをもとにグループワークを行いました。がん専門看護師 鶴田さん、急性・重症患者看護専門看護師 阿部さんがファシリテーターとなり、いろいろな考えを聞くことで新たな発見もあり、理解も深まったようです。

感染防止

部署の感染に関わる疑問を整理し、問題点を明確にし、解決策を考えます。感染管理認定看護師 藤田さん・岡田さん・野々瀬さんがファシリテーターとなり、アドバイスを行うことで、今後への取り組みが明確となったようです。

